

Letters

Arpak

レターズアルパック

VOL.237 ISSN 2432-5295



チル



C O N T E N T S

- ◆【チル】…01～04
- ◆今、こんな仕事をしています…05～08
- ◆近況&イベントのお知らせ…09～10
- ◆まちかど…裏表紙
- ◆ほんとうの脱炭素元年



海と空と 地域再生デザイングループ／浅田麻記子

2019年の夏、初めてハワイを訪れた私は、多くの時間をただただぼーっと海と空を見ることに使いました。

普段、仕事にプライベートに追われる毎日なので、日本にいたるとなかなかそんな時間は取れません。

何もせず、海と空の青さを、風の気持ちよさを感じる。知り合いもいない、言葉もよくわからない、そこにあるのは海と空だけ、そんな空間がわたしをチルさせてくれたのだと思います。

私の2023年はまたあのいろんな青がある海の前、どこまでも広がる青い空の下から始まる予定です。2022年のしんどかったことを全て捨てて、新しい1年を迎えたいと思います。

初夏とチル

公共マネジメントグループ／石川俊博

新年号にも関わらず季節感がズレた話で恐縮なのですが、私の生活の中で最もチルな瞬間は、初夏のブルーアワーにやって来ます。

自室のベランダがそこそこの広さであることに加え、部屋が西向きだったため、日没後もベランダには藍色の空の明るさと日中の暑さが残ります。デッキチェアと小さなテーブルを出して、ビールと読みかけの本を何冊か置き、うつらうつらと過ごして、目が覚めると周囲はすっかり暗くなっている。

年に数回もない機会であったりしますが、この瞬間が来るから、年明け・年度末、もう少し頑張ろうかという気になれたりします。

わたしのチル履歴

生活デザイングループ／内野絢香

最近の「チル」出来事で印象的だったのは、秋晴れの中、鴨川デルタで楽しそうに水遊びをする親子や幸せそうに友人たちとの時間を楽しむ人々を時々眺めながら、本を読み、いつしか寝てしまった時のことでした（起きたときに感じた周囲の冷やかな視線が印象に残っていたのですが）。

思い返すと、私のチル履歴は水辺が高頻度で、筑後川や白川沿いでたそがれ時間、天草湾で何も釣れなかった時など。今のところ私は、水辺に行けば「チル」できる単純な人間みたいです。これからも、できるだけ周囲の目は気にせず、様々な場所でチルを楽しめるようになれるといいなと思います。

新年あけましておめでとうございます。2023年初めのレターズアルパックはチルをお届けします。

チルというのは英語の chill out（チルアウト）を略したもので、「チルする」という表現はくつろぐとかリラクセスするという意味で使われます。

チルすることは自分を解放すること。日々の雑事に追われて凝り固まってしまった自分を、一旦解放してリセットしてみる。年頭にあってそんなことも考えてみてはいかがでしょうか。

去年は物騒なこともいろいろ起きた一年でしたが、今年はまったりとチルできる一年であることを願っています。

レターズアルパック編集委員会

ピクニック

地域産業イノベーショングループ／有田建哉

昔ハマっていた僕のチルり方を紹介します。それはピクニックです。良く晴れた休日の午前11時くらいに適度な公園へ行き、シートを敷いて大の字で寝転びます。意識することは頭の中を空っぽにすることです。過去の出来事も、明日の計画何も、何も考えません。やっていたければ理解いただけるかと思いますが、頭を空っぽにすることは結構難しいです。何も考えないことを意識する程に、邪魔者（雑念）が頭をぐちゃぐちゃにしてくれます。これらをつつひとつ頭の中にイメージしたゴミの流れるベルトコンベアに投げ捨てます。目の前に広がる快晴の空の様に頭がクリアになったら、めでたくチル完了です。

是非、皆さまも試してみてください。結構チルります。但し、蟻には注意です。

偶然どこかで

都市・地域プランニンググループ／植田啓太

旅の進め方には個性があるように思います。私は慌ただしく色々な場所を巡る旅が多くて、つい旅行中も忙しくしてしまうという悪い癖があるようです。

そんな旅の中でも、何かを眺めながら、つい時間を忘れてどこかに座っているときがあります。どこかでこれからゆっくりしよう、といった風に始まるのではなく、偶然どこかに落ち着いてしまうように思います。最近では、東京を訪れた際、増上寺の門前、芝公園の椅子に座りながら、日比谷通りに沿って並ぶ木立や、行き交う人と車の流れを眺めていたときがそうでした。私にとっての「チル」とは、意図しえぬ時間なのかもしれません。



ことば
地域再生デザイングループ／小川直史

「言葉は思考を限定しないが、思考の可能性を限定する」と昔の偉い人が言ったそうです。その言葉を引用しながら、「中動態」なる態の解明に迫った本を年末にかけてようやく読破できました。苦節4年。書籍内で、当初言語は能動態と中動態が対立していたが、いつしか能動態と受動態の対立に置き換わり、「意志」や「責任」の所在が強調されるようになったと指摘します。自分が「やったのか」、「やらされたのか」。なるほど。

日々の生活は能動・受動どちらにも分類しきれないことがたくさんあります。言語形態の問い直しまではできませんが、自分の中で腑に落ちる表現を面倒がらずに探りたいと思います。

チルのスイッチ
都市再生・マネジメントグループ／竹林和恵

チルする、ゆったりまったりするなら、冬にはやっぱり、ほんのり温めたのをちびちびとやりたいものです。キーンと冷やしてグイッと喉越しを味わうのも素敵なのですが。…と言ってもお酒ではありません。豆乳です。アルコールや炭酸が苦手な私にとって、喉越しを求める時は豆乳。そして、寒い日にぬくぬくしながらまったりと頂きたくなるもの、それも豆乳です。

流れで何となくひと休みするのもいいのですが、最近は、「まったり過ごそう！」とスイッチを入れて、積極的な「まったり時間」をつくるようになりました。おうち時間が増え、メリハリが付きにくい暮らしも経験したことで手に入れた、私の新しいスイッチです。

チル（低山）登山
企画政策推進室／中村孝子

数年前の夏に一之宮の御朱印をもらうため鳥海山（標高2,236 m）に登りました。山小屋から観た下界の花火大会やAR技術を活用したスマホのアプリで人工衛星を発見したりで、大学時代にはまっていた登山熱が再燃しました。登山はしんどいけれど、そこでしか得られない感動があります。そして、愛読しているSHIMADAS（日本の島ガイド）を眺めて島山登山も開始した矢先にコロナ渦。

最近では、家族を巻き込んで（低山）登山を攻めています。市内の稲荷山、吉田山、岩田山などで、低い山でもそこから見下ろす京都は、美しくまったりとした時間が過ごせます。下山後のご褒美は、喫茶店のコーヒーや美味しいごはんを食べておしまいです。

チ〜チルチル
生活デザイングループ／岡崎まり

チルという文字の響きが何かの鳴き声に見えてくるのは、休みの多くを子どもとの虫取りに費やしているからでしょうか。11月初旬までは、虫の声を頼りにツクムシやコオロギ等を捕まえていたので、夜になると家の中で毎日虫たちの演奏会が開催されていました。11月下旬から家の中が静かになり、本格的な冬の到来を感じています。

チ〜チルチルとメジロが鳴く春の季節が訪れたら子どもが小学校に入学するなど、私自身も生活が大きく変化する予定です。そのような変化の中でも今までどおり、子どもと自然の音に耳を澄ましてチルする時間を楽しんでいきたいと思います。

チル、ラーメン
サスティナビリティマネジメントグループ／齋藤友宣

ラーメン好きの私が、新型コロナ渦中に困ったのが、こよなく愛すラーメン屋に行けなくなったことです。

そんな折、スーパーで目に留まったのが、チルラーメン。昔はさほどおいしいとは思えず、ほとんど手にとることがなかったのですが、ラーメン屋に行けない状況とたまたま自宅近くの店を再現したと銘打った商品が売り出されたこともあって久々に購入。食べてみると、まるでラーメン屋のラーメン。「もう店に行かなくてもいいや」と思えるようになったラーメンが私のチルです。

と言いながらも、チャンスがあれば家族に内緒でラーメン屋に足を向けているのはここだけの秘密です。



寒い朝の日
地域再生デザイングループ／辻寛太

チルとは、他の人がしないような「こと」、「時間」、「場所」です。自分だけの特別感を得られることがチルが持つチルさを表しているような気がします。私のチルは、私が住む小さな雑居ビルの屋上から見る風景です。なんともない風景でも、ビルに住む人や働く人しか見られないと思うと特別感があります。

屋上やベランダは安全面や掃除の面から敬遠されがちですが、それでもそこに立つと心にゆとりが生まれ、今日も頑張ろうと思えます。なくても成立するけど、あると良い空間を建築や都市に提案していきたいと屋上から見える朝日を眺めながら思うこの頃でした。

「のりだんだん」をまったりと
サスティナビリティマネジメントグループ／畑中直樹

先日「マツコの知らない世界」で、北海道松前町の「のりだんだん弁当」が全国の道の駅の中でも特に珍しい食として紹介されました。一見すると単にご飯に海苔が乗っただけに見えるのですが、実はこの海苔が、厳冬の1～3月に磯で集めた岩海苔から作ったもので、1枚700円！の超希少なもの（今期分は即売切）で、これがご飯と2層になっています。いつもお世話になっている旅館の女将さんらが最近考案されたらしく、放送直後にはあらためて堪能してきました。

風力発電がフル稼働する冬が明けたら、北海道唯一の和式城の元国宝松前城での桜祭で春を迎えます。みなさん松前でチルってみませんか。

谷の奥のハズタニ
ソーシャル・イノベティブデザイングループ／笹谷友紀子

チルということでの紙面を観葉植物、淡い光が差し込む木目を基調とした整った自室、オートミールとヨーグルトで埋め尽くすことも容易かったのですが、それには日頃の積み重ねと体力が必要です。

ある週末、樋口忠彦の『日本の景観』を読み、初瀬という谷の奥地の街並みに行ってみようと思立ちました。笹谷という名が谷の奥地での休息を本能的に求めたのかも知れません。

初瀬の街並みは懐かしい故郷のようでした。山々に囲まれ、上流から下流に軸を持って流れる川、斜面に並ぶ家屋、ゆっくりとした時間の流れが心を落ち着かせます。こんな空間体験こそが真のチルではないでしょうか。

2355
建築プランニング・デザイングループ／原田稔

みなさん こんばんは ごきげんいかが 2355の時間です♪～今日の終わりに ちょっとひといき 勉強中の人もひと休み♪～

23時55分、テレビから流れる細野さんのゆるい歌声を聞きながら、今日も缶ビール片手にチルってます。今夜はお気に入りのヨルガヤ姉妹の今夜も眠れません。

そして、金曜日の夜は特別です。

あしたは土ようび あしたは土ようび♪～ 天気はどうかかな？ なにしよう？ 夜ふかししていい 金ようび♪～（深酒していい金曜日。）



暮らしているような観光
都市再生・マネジメントグループ／馬場正哲

出雲の斐伊川が、宍道湖に流れ松江から中海へと広がる旧平田市は、昔物資の集散地として栄えた。その往時の「木綿街道」の名をとどめ息づく町が残っています。

そんな町の、酒を嗜み美肌を醸す「酒持田本店」の登録有形文化財の蔵一棟貸しの宿「RITA 出雲平田 酒持田蔵」で晩秋の出雲路を楽しみました。

街を歩くと、「左棧瓦」や「なまこ壁」、「格子窓」の連なる町屋、船着き場への「かけだし」、物資搬出入の「小路」もそのまま。老舗の酒屋、醤油屋、和菓子屋、イタリアンな匂いも。伝統に包まれた生活のある懐かしく豊かな“暮らしているような観光”を楽しむ夕暮れでした。

久々にチルアウト
建築プランニング・デザイングループ／三浦健史

チルという言葉をもっと最初に聞いたのは四半世紀以上前の学生時代、日々音楽に埋もれていた頃でした。UKやUSインディが好きでしたが情報源の少ない時代、フジテレビ深夜のビートUKという番組かタワレコやヴァージンとかで視聴しまくる中で、チルアウトに出会ったのです。基本ロック畑の私ですが、他にもトリップホップとかダブとかいろいろ聞いたなあ。今ではSpotifyである程度は聞けるので、懐かしくなっていくつか聞き直してみました。

温故知新。今年も新しいもの・こと・人との出会いも大切にしつつ、昔からの良いものやことも掘り出してミクスチャーしていきたいです。

自然のなかでチルする
都市・地域プランニンググループ／松下藍子

最近登山を始めました。登っている時はチルとはかけ離れたしんどさですが、自然の中で一日過ごした後は、程よい疲労がありつつ気持ちがりフレッシュされます。

山により自然環境は異なり、同じ山でも季節で表情が変わります。当たり前のことですが、自然の変化に気づける時間がとても貴重なのです。

事前にルートや時間の計画を立て、必要な服や装備を準備します。様々なこだわりのポイントがあるのも魅力です。もっと突き詰めると、計画性も体力も対応力も養える、とても有益な行動なのではないかと思いつつ、今は手軽に登れる山で、山頂でおいしいご飯を食べてチルするのが一番の楽しみになっています。

空と雲
総務部／柳井正義

空を眺めるのが好きだ。ビルの谷間から見上げる青空も悪くないが、視界が開けたところで眺める積雲の発生と消滅や、日没後に積乱雲の雲頂のみが残照に赤く染まる一瞬も見逃せない。カンザス州に行ってスーパーセルと竜巻に出会うのも一度やってみたい。昔東京タワーの展望台で夕立に遭遇したときも周囲のビルに落ちまくる稲妻に時を忘れて見とれていた。雲は普通見上げるが、山の上では見下ろすこともある。夜明けごろ眼下に広がる雲海や、稜線の風上側と風下側で天気がまったく異なる景色など、水蒸気や気流をまさに体感できる。



賀茂別雷神社でチル
ソーシャル・イノベティブデザイングループ／水谷省三

賀茂別雷神社の宮前菓子といえば、「葵家やきもち総本舗」の「焼き餅」が有名です。店内で「焼き餅」を買って、その場で焼いてもらう事もできます。天気の良い昼下がりには、「葵家やきもち総本舗」の温かい焼き餅を持って、宮前広場の自然石のスツールに座り、くつろぎながら食べるのをお勧めします。また、賀茂別雷神社の社務所横には、神山（こうやま）湧水を使ったコーヒーを淹れてくれる「神山湧水珈琲 煎（せん）」という喫茶店があります。この店で「コーヒーと和菓子セット」を注文すると「焼き餅」と一緒に賞味することができます。お店のすぐ横の休み処には、檜木で造られた背もたれ付きのベンチがあります。参拝の後に立ち寄っていただき、コーヒーと焼き餅を食しながら、神社の歴史と自然を感じていただければと思います。

ガタンゴトン揺られて
総務部／若林秀和

ゆったり時を過ごすことは思いつかないのですが、私の理想は鉄道旅ぐらいです。子どもの頃は急行列車に長時間揺られながら、サッカーの試合に向かうという二重の楽しみで、前日眠れないということもあったことを思い出します。私の地元の中国地方では、定期の急行列車は廃止され、現状は赤字ローカル線です。鉄道事業者は「将来の地域公共交通の姿について議論を開始したい」そうで、いずれは覚悟ということになりそうです。

無くならないうちに乗っておかないと。新型コロナもいずれ落ち着くでしょうし、地域を問わず時間も忘れポリ茶瓶を片手にガタンゴトンとマッタリ長旅をしたいものです。

みかんの食べ過ぎには気をつけて
地域産業イノベーショングループ／山口泰生

今回の特集テーマ「チル」を聞いて、最初に頭に思い浮かんだのは「お正月」でした。毎年のお正月は、祖父母の家に帰省をしています。話は少し遡り、私が3歳頃の話です。当時の記憶は全くないのですが、お正月になると、祖父母がみかんの箱買いしていたため、大量のみかんが家にありました。私はみかんが大好きだったらしく、毎日とんでもない量のみかんを食べていたようです。ある時、私の母親が私の体を見て驚きました。全身が真っ黄色になっていたようです。病院に行くと、「柑皮症」という病気でした。原因はもちろん、みかんの食べ過ぎです。しばらくは「みかん禁止令」が出たようです。今年もみかんの食べ過ぎには注意して、よい1年を過ごしたいと思います。

散る
公共マネジメントグループ／渡邊美穂

お題の「チル」を聞いて頭をよぎったのは「散る」でした。「散る」にあまり良いイメージはなかったのですが、今回のワールドカップの日本代表をみて、100%、120%を尽くすからこそ「散る」があるのだと思いました。自身は、社会人歴10年を過ぎ、「散る」ような思いの仕事の仕方から、持続できる仕事の仕方として、落としどころ、折り合いをつける術を身に付け、「散る」ことには勇み足に。来年は「散る」ような思いを持って（その上でできれば上手くいって）「ゆっくりとくつろぐ」「まったりと過ごす」意味での「チル」を満喫したいです。

チル庭
建築プランニング・デザイングループ／和田裕介

一昨年に引越しをしたところ、偶然、家のまわりにスペースができました。せっかくなので、レンガを積んで花壇をつくったり、園芸店で木を買ってきて植えてみたりと、なんとなく適当に庭づくりをしてみました。

家族は住まいの外側に関心がないので、しょうがなく一人で週末毎に手入れを続けていると、土いじりによるリラクゼーション効果を楽しみ、いつの間にか心癒されるチル庭に…。

しかしながら、根は欲張りな性格なことから、穏やかなチル庭だけではモノ足らないようで、寄植えをつくってみたり、ピカクシダを板付けにしてみたり、アガベにまで手を出してみたりと、全然チルくない園芸の沼に、ついつい足を踏み入れてしまいます。

丹波篠山市がオーガニックビレッジへ

武藤健司：

地域産業イノベーショングループ

農林水産省では令和3年に策定した「みどりの食料システム戦略」において、2050年までに有機農業の取組面積を耕地面積の25パーセント（100万ヘクタール）まで拡大する目標を掲げました。

現状値が1パーセント未満であることを踏まえると、かなり大胆な目標と言え、「持続可能な農業の実現」に向けて大きく転換する可能性を秘めています。

この目標の実現に向けて、令和4年度に、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）として、全国55市町村が公表されています。丹波篠山市はその1つであり、当社もお手伝いをしています。4月頃には実施計画を策定し、計画策定後は、市として「オーガニックビレッジ宣言」を行う予定です。

有機農業の栽培には様々な考え方があり、さらに、気候や土壌の状態によっても農法は大きく異なります。推進に向けては、これまでに実践されてきた生産技術の体系化と普及に加えて、スマート技術等の開発・確立が不可欠です。丹波篠山市においても、水稲での除草対策、黒大豆や野菜での防除対策などの栽培技術確立に向けて、農業者が中心となった実証事業を開始す



る予定です。また、生産だけでなく、加工・流通、販売（消費）を一貫して取り組むことを重視し、有機農業者のグループによる販売体制、情報発信に向けたプロジェクトチームを作り、視察や勉強会も行うなど検討を進めています。

丹波篠山市では、有機農業と慣行農業を比較して階層や優劣をつけるのではなく、「違いのある農業（農法）」と捉え、両者が認め合い共存できることを大事にしています。各取組を進めることにより、オーガニックビレッジに向けた取組の輪が少しずつ広がってきています。

茨木城下町の面影が残る

在郷町エリアにおける歴史・文化的資源を活かしたまちづくり

新開夏織：

建築プランニング・デザイングループ



古きまちなみ写真展

茨木市の中心部でJR茨木駅と阪急茨木駅に囲まれたところには、かつて茨木城の城下町として発展した「在郷町」というエリアがあります。

江戸時代初期に廃城となつてからは酒造業などの商工業で栄える集落となり、今でも旧街道沿いには立派な町家や歴史を感じるものがたくさん残っています。

令和2年度からスタートした本業務では、これまでに、町家をはじめとした在郷町に残る歴史・文化的な資源を調査し、景観まちづくりの動きにつなげていくため、小学校での出前授業や住民ヒアリング、まち歩きマップの作製など行ってきました。

そして今秋には茨木市内に住む親子向けのまち歩きイベントと市民から集めた在郷町の古きまちなみ写真展を開催しました。



今昔まち歩きツアー

写真展では、期間中に何度も足を運んで写真を見る方や、写真を眺めながら当時の思い出を語る方の姿がみられ、在郷町への思いを深めていただく機会となりました。

令和5年度は本業務の最終年度となります。地域に残る「お宝」を未来に繋げていくための今後の在り方について、地域と一緒に考えていきたいと思っています。

まちを使いこなす まずは公園から始めてみませんか

小川直史：
地域再生デザイングループ

奈良市のこれからの公園のあり方とその実現に向けた方針をまとめた「奈良市公園マネジメント基本計画」の策定を支援しました。

都市公園は都市環境改善や自然環境保全、都市防災等で重要な役割を担っており、近年は多様な地域ニーズへの対応が求められるなど、公園を取り巻く環境は時代とともに変化を続けています。

奈良市では500を超える都市公園等を抱え、年間の維持管理費は総額5億円を上回ります。公園の利用実態調査では、様々な公園利用のニーズがあるものの都市公園等の利用方法が画一的に制限されていることや半年間でほとんど利用のない公園があることなどが分かっています。

「では、あまり使われていない公園はペットの散歩OKにして、ボール遊びもできるようにしましょう」という解決策は乱暴です。現在の利用ルールは過去の様々な経緯や事情から形作られています。公園に対するニーズや、顕在化している問題の複合的な背景を解きほぐしながら課題を整理し、奈良市として目指す将来像を「日常に公園のある暮らし」とまとめました。

その将来像を達成するために重視する視点として「まずは関



公園のマネジメントを通じてめざす将来像

係者間で対話する」「気軽にトライしてみる」「地域の魅力を生かす」「ルールとマナーのバランスを取る」「更新し続ける」を掲げ、都市公園等を「変える」メニューとして7つの手法を提示しています。

1年と3か月にわたる策定プロセスの中で、事あるごとに議論になったのが「奈良らしさとは何か」でした。今回の計画でどれだけ表現できたかは分かりませんが、移り変わっていく「らしさ」があるとすれば、これからの公園を巡るシーンが奈良らしさを形成していくでしょう。個人的には、奈良で暮らす思い出の中に公園のシーンが出てくる人が増えていくといいなと思っています。

「景観」という公共財で地域をつなぐ

藤田始史：
ソーシャル・イノベティブ・デザイングループ

草津市からの眺望をふまえた大津市景観計画の改定のお手伝いをしています。

景観法（2004年）が施行されてから20年近くが経過し、全国の自治体で景観計画の改定の動きが見られています。今年度私どもで、大津市の景観計画の改定のお手伝いをするようになりました。

大津市は陸運、海運の要衝として発展してきました。大津市は、石山寺・三井寺をはじめとする寺社仏閣や、集落や旧街道沿いの伝統的なまち並みなど歴史的要素が多数残っているほか、比叡山の山なみなどの自然景観、田園風景、ニュータウンのまち並みなど多様な景観を有しています。そのため、現行の景観計画では、細かく区域を



草津市側からの大津市街地の眺め

定めながら丁寧に規制・誘導を図ってきました。

近年転入者が増加しニュータウン開発や高層マンションが進む中で、社会変化に伴う区域の見直しを行うとともに、地域住民を巻き込んだ「景観まちづくり」につなげていくことが、今回の改定の大きなテーマになります。

もう一つ目の大きなテーマが、琵琶湖への眺望景観です。大津市は、文化的にも歴史的にも琵琶湖と非常に強いつながりがあり、琵琶湖への眺望をいかに守り、伸ばしていくかが重要な課題です。今回の改定では、新たに琵琶湖を挟んだ対岸の草津市からの景観を検討することになりました。草津市からの眺望をどのように守るのか、草津市と話し合いながら進めています。他の市町村からの景観を検討するのは、あまり例のないことです。

「景観を守る」、「景観を作る」というのは実感が湧きにくいことですが、「景観」という公共財はほかの市町村と連携を図っていく上でのキーワードになると思います。



土岐市ならではの「新たな地域資源」を発掘中です

末次優花：

都市・地域プランニンググループ



緑豊かな山麓と土岐川



陶器のマイストロー



陶器用のカラフルなコンテナ



玄関横の小学生の作品が面白い



ころうどん（冷たいうどん）



ポストも陶器

皆さんは、「土岐市」と聞いて、何を思い浮かべますか？
土岐市は、岐阜県東濃地域に位置する緑と水が豊かなまちです。良質な粘土と焼成の燃料（薪）が豊富なことから、古くから陶磁器産業が盛んであり、1300年以上の伝統を持つ美濃焼の産地です。300を超える窯跡が現存し、現在も260社を超える窯元・メーカーが高級品から量産品まで多様なニーズに対応した陶磁器を生産しています。食卓用・厨房用食器、タイルなどその他の陶磁器も含めて国内生産量の約6割にのぼるほどのシェアを誇ります※。
市内にはアウトレットモールがあり、最近では大型のイオンモールもオープンしました。中部地方在住者にとって土岐市は

ショッピングの印象が強いようです。しかし、土岐市には、陶磁器や様々な魅力があります。そこで、今年度、市ならではの眠れる地域資源や新たな地域資源を「発掘」し、その資源を活かして新たなモノや事業を「創造」し、市内外に「発信」する「土岐地域資源活用推進計画」の策定が進められています。アルバックも計画策定をお手伝いしています。
現在は、より多くのとっておきの地域資源の「発掘」を進めています。私たちが見つけた魅力を写真で紹介いたします。土岐市の魅力を感じていただければ幸いです。
※資料：土岐市ふるさと名物応援宣言（平成27年9月14日）

中国四国地方の釣った！見た！お魚の情報を集めています

駒和磨：

サスティナビリティマネジメントグループ

近年、気候変動影響で、海の生態系が変化しつつあり、地域の漁業や水産関連事業に影響を及ぼしています。

現在、環境省事業で実施している「気候変動適応における広域アクションプラン策定事業中国四国地域業務」において、テーマの1つとして、「瀬戸内海・日本海の地域産業分科会※」があり、その中で、瀬戸内海・日本海における魚種の変化などを「海の変化」の情報をいち早く収集するために、海の市民である釣り人、ダイバー、漁業・水産関係者から釣った魚や見た魚の情報を収集する仕組みに関する実証を行っています。

特に情報収集を呼びかけているのは、暖海性の魚種のうち、藻場の衰退・磯焼けの原因となる「藻類食害魚（アイゴ、イスズミなど）」、付加価値の高い魚種である「ハタ類（アラ、アオハタなど）」や、その他に「中国四国地域ではあまり見たことがないと感じる魚種」としており、地域の漁業に対して、リスクとなりうる魚種、チャンスとなりうる魚種の情報を既存のプラットフォーム（釣果サイト釣りペディア、神奈川県立生命の星・地球博物館収蔵資料データ

ベース）にご協力いただいで収集しております。

実証開始から1か月が経過しておりますが、魚種の情報と一緒に、「ここ数年は釣れる魚が一ヶ月ずつ遅れている」など、海の変化の気づきも頂いております。

今後は、いただいた情報の精度などを実証で確認しながら、各地域で気候変動に適応するアクションへ活用できる仕組みになるよう検討していきます。

本実証は今年度の1月末まで実施しておりますので、年始めに中国四国地域へ帰省・ご旅行の機会がありましたら、見かけた魚の情報提供にご協力ください！

※「瀬戸内海・日本海の地域産業分科会」では、国、関連自治体、研究機関等が参画し、魚種変化等の情報の情報収集や海の気候変動影響に関する情報発信体制の構築等を検討しています。

実証の詳細はアルバックHPへ
<https://www.arpak.co.jp/event/item4980.html>



地域の未来を考えるワークショップを開催しています

嶋崎雅嘉：
生活デザイングループ



皆さん、対話の場を求めていたのかもしれない。多くの意見・アイデアが出されました。

茨木市では、各地域で活躍している様々な地域団体が横の連携を広げて、地域が抱えている課題について互いに把握し、協議しながら解決していくために、地域ごとにワークショップを開催する取組を進めています。

このワークショップは、地域住民や地域組織、さらにはNPOや民間事業者なども集まって情報交換をし、地域における課題や今後の方向性について話し合う「協議の場」です。アルパックでは、各地域3回

ずつのワークショップを開催するプログラムの実施を支援しています。コロナ禍の中、ワークショップの開催自体も危ぶまれていた時期もありましたが、今年度は4地域で実施することができました。

各地域とも担い手不足や役員の負担感、コロナで滞っていた行事・対話の再始動などに関する悩みを抱えており、持続的な地域自治活動としていくためのアイデアやきっかけが求められています。各地域とも率直に課題を出し合い未来に向けた意見交換がなされました。

ワークショップをきっかけとして、団体間の情報共有や、人材同士のつながり、地域課題への共通認識が育まれるとともに、既存の取組に対する評価と改善点・反省点も共有されたことで、新たな主体やアイデアを取り込む寛容さの必要性も認識されたのではないかと思います。

コロナ禍を経て、各地域での自治活動がストップしたり縮小したりしていることが多くなっています。一度コミュニケーションが薄れてしまうと再構築することは難しいことから、今のうちに「対話の場」を再スタートする必要性を感じます。

子ども達の育てた白朮（をけら）が大晦日にデビューします

高野隆嗣：
地域産業イノベーショングループ



八坂神社の御蔭元、京都市東山区の市立開晴小中学校の子ども達が育てた白朮（をけら）。八坂さんに奉納するための、収穫ワークショップを行いました。

大みそかの晩、八坂さんの境内で執り行われる「をけら参り」。その際に用いる生薬の白朮。かつて全国に広く自生していましたが、今日では絶滅危惧種とされています。八坂さんに僅かに残っていた一株を、「地域の皆で増やそう」という試みが、以前も紹介した「八坂神社のをけら再生プログラム」です（既報207号）。

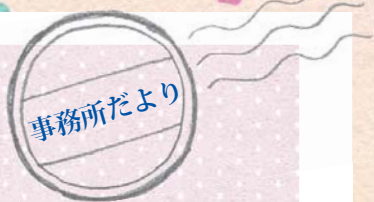
あれから5年。京都市都市緑化協会のご尽力で株分けに成功した苗を、開晴小中学校の子どもたちが鉢植えで育ててくれました。立派に成長した株を掘り起こし、乾燥・皮剥き・刻む工程を、武田薬品工業の京都薬用植物園の協力も得て、皆で体験しました。小中一貫校のた



生成した数百グラムの白朮は、年内に八坂神社に奉納。今年の大晦日に用いられる予定です。皆さんの協力で毎年一歩ずつ、八坂神社の白朮の再生が進んでいます。

め、幅広い学年の「環境委員会」三十数名が、積極的に初めての体験を愉しんでくれました。





京都

「時が止まるように感じる一時 六曜社・フランソワ」

名古屋事務所 尾関利勝

京都のまちは文化財や景観地区指定が無いところでは、テナント入れ替えなどで、まちの表情が少しずつ変わっています。そんな中で、まるで文化財のように50年以上変わらず続いている喫茶店があります。

河原町三条下がる大黒町東側地下1階六曜社。改装はしたでしょうが、カウンター越しの小さなサイホンコーヒーの店、50年の変化を感じません。

四条小橋下がる船頭町西、レトロな洋風の構えの喫茶店フランソワ。エンタシスの柱が象徴の店内は50年前と変わらないおしゃれな店、そして客。

50年の時が止まるように感じる一時、いかがですか。



六曜社



フランソワ

名古屋

「円頓寺秋のパリ祭！」

名古屋事務所 辻寛太

名古屋事務所が入る名古屋国際センターは円頓寺に近い那古野という地域に立地しています。円頓寺は名古屋駅から1kmもない場所にあります。界隈には木造の古い町並みや昭和のノスタルジーを持つ円頓寺商店街があります。そんな円頓寺商店街では、11月12日、13日にパリのパッサージュに似たアーケードの下で、パリ祭が開催されました。3年ぶりの開催となった今回は、フランステイストの物販が立ち並ぶマルシェやステージでのライブ、ストリートパフォーマンスが行われ、多くの人で賑わいました。



イベント時の盛り上がりもさることながら、円頓寺商店街の面白いところは、日常にあります。表通りには古くからのお店が並び、奥まった路地には新しいお店が入り組み、名古屋文化のモーニングを楽しめる喫茶店から、人気のイタリアンまで、多種多様な個人店が並ぶ商店街には、常に新しい発見があります。

イベント時の盛り上がりもさることながら、円頓寺商店街の面白いところは、日常にあります。表通りには古くからのお店が並び、奥まった路地には新しいお店が入り組み、名古屋文化のモーニングを楽しめる喫茶店から、人気のイタリアンまで、多種多様な個人店が並ぶ商店街には、常に新しい発見があります。

名古屋に訪れた際にはぜひ足を運んでいただき、気になったお店にふと入ってみてください。

書籍紹介

『社会とじぶんのあいだの難問』

竹内和巳

発行 / SURE 那須耕介著

生活デザイングループ

最近、積読から解放された書籍の紹介をしたいと思います。

本のタイトルは「社会とじぶんのあいだの難問」、著者は那須耕介という法哲学者です。

書籍のトピックは正直まだ、つかめていないのですが、那須さんの思考のおおもとは「嫌いな人ともなぜ共に暮らしていかないといけないのか」という問いがあるそうで、考えさせられる言葉が多くあります。

私たちは「相容れない」と感じる人も含めて、社会をかたちづくっています。なんでそんなことをしないといけないのか、考えるのはとっても面倒で答えのない作業です。それに疲れた人たちが多くいることも指摘があり、英雄待望論にも話がつながっていきます。



那須さんは、「答えがない」ということを探り続けることの意味を語られているのだろう、と勝手に思っています。それは、私たちの地域まちづくりにとって非常に大切なことのように思います。

近況 & イベントのお知らせ

都市計画学会の全国大会でワークショップを開催しました

ソーシャル・イノベティブデザイングループ 坂井信行

都市計画学会の研究交流事業として活動している若手民間都市プランナーと都市計画学会の学識者の交流を目的とする研究交流分科会の取組の一環で、昨年12月に宇都宮大学で開催された都市計画学会全国大会において、「都市プランナーに求められる職能とその社会的地位の向上にむけて」というワークショップを行いました。研究交流分科会でのこれまでの議論を振り返りながら、公開で議論をするという趣旨で実施したものです。

ワークショップでは①社会における「都市計画」の認知度の向上に向けて、②「都市計画に関わる分野と主体」の多様化と連携に向けて、③「民間都市プランナー」の認知度の向上に向けて、の3つの論点について主にメンバーの間で議論を深めました。「都市計画」は一般の人の日常の暮らしにも大きく関わるので、大人も子どももまちについての継続的な学びの機会が必要である、都市プランナーは人に関わる様々なことを理解していく必要がある、一般向けの雑誌などでも都

市の見方や関わり方についての発信が必要である、などの意見が出されたほか、成果における社名や個人名のクレジットの問題についても議論になりました。今回のワークショップで答えが出たわけではありませんので、今後も継続して議論していくことになります。

研究交流分科会では、こうした議論の他にもミニ講演会やまち歩きなどの活動も行っています。随時メンバーを募集していますので、関心のある方はご連絡ください。



当日の会場の様子

適塾路地奥サロン報告

適塾路地奥サロン実行委員会

50回

2022年
11月17日

「都市交通における中速モビリティの動向
～国内外の事例からみた今後の方向性～」

講師 大阪市立大学工学部・工学研究科
都市学科都市デザイン領域 准教授 吉田長裕氏

第50回適塾路地奥サロンでは、大阪市立大学吉田長裕氏をお招きしました。

講演では、「都市交通における中速モビリティの動向～国内外の事例からみた今後の方向性～」というテーマで、都市交通の分野における自転車や小型電動モビリティのような中速モビリティの国内外の関連事例を紹介しながら、今後の持続可能な都市交通のあり方と方向性についてお話していただきました。世界から見ると日本は自転車が一般的な交通手段として確立されている一方で、自転車に関する交通面での政策が進ん

でおらず、現状では「自転車が歩道と車道の余った部分を走らなければならないという状況にある」との解説がありました。また、海外では自転車走行の安全面や快適性を重視した交通環境の整備に注力し、歩道、車道、自転車道を明確に分離させて交通の体系を組んでいる事例が多くあります。

この紹介を受け、安心安全かつ快適な自転車や小型電動モビリティ利用の推進を図る上で、海外の事例を参考に交通携帯の見直しの必要性を大きく感じる事ができました。(有田建哉)



お詫びと訂正

前号のレターズ「アルパックとゆかりの深い万博公園の活性化に向けたビジョンの見直し」の文中のお名前が間違っていました。お詫び申し上げますとともに

次の通り訂正いたします。

【誤】中山ひとみ

【正】松山ひとみ



＜おおさか脱炭素ポイント＋＞

事業者名(五十音順)	実施店舗等
株式会社アーバンリサーチ	・ THE GOODLAND MARKET 堀江店 ・ URBAN RESEARCH DOORS 南船場店 ・ URBAN RESEARCH Store ルクア大阪店
株式会社サンブラザ	大阪府内全 35 店舗
上新電機株式会社	大阪府内全 53 店舗
西日本旅客鉄道株式会社	移動生活ナビアプリ WESTER を活用した会社 「AI スタンプラリー (おトクに GO!)」

＜おおさか CO2CO2 (コツコツ) ポイント＋＞

事業者名(五十音順)	実施店舗等
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社	豊中駅前店 池田店
大阪いずみ市民生活協同組合	イズミヤ 千里丘店 コープの宅配

サンブラザ
についても考慮
することが必
要です。これ

参加事業者
サポートに活用する
など、環境と経済と
社会の好循環を目指
した取組を進めてい
ます。昨今の電力コ
ストの高騰の影響を
大きく受けています
が、同様の取組が奈
良県生駒市の「いこ

ま市民パワー株式会社」などいくつ
か進んでいるところです。
都市部でも取組が進んでいます。
大阪府は事業者と連携して脱炭素
を推進する基盤として今年度から
「脱炭素ポイント制度推進プラット
フォーム」を立ち上げました。
最初の第一歩として、昨年 11
月から脱炭素行動にポイント
を付与することで、消費者の意識
と行動の変化を促す「おおさか
脱炭素ポイント+」「おおさか
CO₂ (コツコツ) ポイント+」の取組
を府内の 6 事業者と実施しています
(当社支援)。今年度は既存のポイン
ト制度を持つ事業者と取り組んでい
ますが、今後はさらに対象を広げる
ことを目指しています。

長沢弘樹

サステナビリティマネジメントグループ



ほんとうの脱炭素元年

「脱炭素」が日常的に聞かれるよう
になりました。新聞をめくって脱炭
素や気候変動といった文字を見ない
日はありません。

とはいえ、実際にどういった生活
を送れば、脱炭素的に十分と言える
のか。それが見えない、分かりにく
いのが悩ましいところです。

確かに「ゼロエネルギー住宅に住み、
自家用車を使わない」生活を送れば「脱
炭素に近づいている」と言うことはで
きます。とはいえそれで十分かと問わ
れると、仕事中の脱炭素や外出・買い
物などでの脱炭素を評価できないま
までは「否」としか言えません。国内
の温室効果ガス排出量のうち、家庭生
活に直接関連する割合は約 2 割です。
本当に脱炭素というなら、他の 8 割に

では伝わらないのも仕方ありません。
脱炭素のイメージが不十分なので、ど
うしたらよいか分からないし、何が
どれだけよくなるのかも見えないの
です。それでも「脱炭素」という言葉
は飛び交っています。乱暴に言っ
まうと、どこか遠い国の戦争を語るよ
うな言葉になってしまっています。

そんな中で、脱炭素にまつわる私
たちの想像力を補い、わかりやすく
実効性のあるものにする動きが進み
つつあります。

その筆頭が電気です。地域で発電
し地域で消費することにより、地域
の経済を支援し、地域の活動を応援
しようという取組が進んでいます。

例えば、京都府福知山市を拠点に
する「たんたんエナジー」は、脱炭
素の実現に加えて、収益を丹後・丹
波という地域に根ざした地域活動の



上新電機平野加美店

表紙写真：岡崎神社のウサギのおみくじ / (撮影 原田稔)

「レターズアルパック」は、ホームページからご覧いただけます。

アルパック (株) 地域計画建築研究所

Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto
<https://www.arpak.co.jp> E-mail: info@arpak.co.jp

- 本社・京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町 82 TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
- 大阪事務所 〒541-0042 大阪市中央区今橋 3-1-7 日本生命今橋ビル 10F TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601
- 名古屋事務所 〒450-0001 名古屋市中村区那古野 1-47-1 名古屋国際センタービル 7F TEL(052)462-1030 FAX(052)462-1061
- 東京事務所 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-15-7 いちご大手町ノースビル 4F TEL(03)5244-5132 FAX(03)6273-7715
- 九州事務所 〒810-0802 (株) よかネット：福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パルビル 8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128
- 滋賀営業所 〒527-0012 東近江市八日市本町 9-14 TEL(0748)36-2065 FAX(0748)36-2168
- ホーチミン (ベトナム) No.187/7, Dien Bien Phu Street, Da Kao Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam



この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。